

## はじめに

昨年末、京都で開催された「古典学の再構築・第1回公開シンポジウム」では、80名を越える参加者が、13人の講演者のたいへん充実した発表・討論を聴講した。パネルディスカッションにおいては、時間を30分延長してもなお足りないほど熱心な議論が続いた。

このシンポジウムを通じ、「古典学の再構築」の発足に当たって、古典学の各分野が総括され、正確な俯瞰図が得られたように思う。時間の制約のため、すべてが洩らさず扱われることはなかったにせよ、少なくとも各分野の主要課題はそこに提示され、また現代の古典学の置かれる歴史的、社会的な位置もよく明らかになった。

提示された諸問題について、今後、それらの発表をもととして考察を深めてゆきたい。この号は、そのために、シンポジウムの内容をできるだけ忠実に伝えようとするものである。

平成11年3月23日

領域代表 中谷 英明